

10月31日(日)・大会2日目 13:10~14:40 (A会場) (90分)

●組織論レビュー セッション【13】

「企業の競争力向上を促進する集団認知とチーム連携」

*大沼沙樹 (茨城大学 人文社会学部 講師)
秋保亮太 (大阪大学 人間科学研究科 助教)
村瀬俊朗 (早稲田大学 商学部 准教授)

*代表報告者

[概要]

組織の取り巻く環境が大きく変動する現代では、急速な技術進化や働き方の多様化に伴って、メンバー間の連携が複雑化している。このような中、組織が競争力を高めていくため、様々な分野においてチームワークを促進する要因が模索されてきた。特に近年のチーム研究では、チームレベルで現れる認知活動全般をチーム認知として概念化し、その機能について盛んに議論が行われている。

本論文では、チーム認知の代表的概念であるトランザクティブ・メモリー・システムと共有メンタルモデルに着目し、2つの比較を通してそれぞれの概念の意味するところを整理しつつ、関連要因のレビューを行った。

また合わせて、これら2つのチーム認知がチームの創造性に対してどのような役割を持ちうるのか、その可能性についても先行研究を通して議論を行った。

[参加者へのメッセージ]

チーム活動は、その成否が組織の競争力に対して大きな影響をもたらすことから、近年分野を問わず注目されているテーマと言えます。これに伴って、世界的にはチーム認知などの心理的側面からチーム活動について盛んに議論が行われています。

一方で、日本国内ではチーム研究そのものが十分に実施されていません。その背景の1つに、チーム認知という概念の複雑さが挙げられます。

そこで本論文では、現代のチーム研究の主流とも言えるチーム認知のうち、トランザクティブ・メモリー・システムと共有メンタルモデルの2つに焦点を当ててレビューを行い、概念と関連要因の整理を試みました。本論文が、チーム認知の理解の一助となれば幸いです。

※組織論レビュー セッション：発表 60分・コメント 20分・質疑 10分